

令和元年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第1回）			
日 時	令和元年7月10日（水） 14時00分～15時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出 席 者	委 員 （14人）	森会長、鴻野委員、藤田委員、淀野委員、崎野委員、熊谷委員、清藤委員、鈴木委員、米沢委員、斎藤委員、鹿内委員、一戸委員、成田委員、外崎委員	
	事務局 （8人）	市長、企画部長、企画課長、企画課長補佐、企画課総括主幹、企画課主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 委嘱状交付			
○市長から森委員、鴻野委員、藤田委員、淀野委員、崎野委員、熊谷委員、清藤委員、鈴木委員、米沢委員、斎藤委員、鹿内委員、成田委員、外崎委員に対して委嘱状を交付した。			
3 市長挨拶			
4 会長選出			
○委員の互選により森委員を会長とすることに決定した。			
5 議事			
(1) 令和元年度総合計画審議会の進め方について			
○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。			
(2) 弘前市総合計画の概要について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
・各リーディングプロジェクトの4年後の目標値は、達成できそうな数値か、それともこうしたいという希望の数値か。			
⇒現状で達成可能な目標値ではなく、この目標値を目指すことで期待する成果が達成できるという考え方に基づいた数値である。			

・総合計画の本編には、%表記されている目標値を達成した場合に、例えば費用がどの程度削減されるかなどの効果は明記されているか、それとも目標値の記載のみとなっているか。具体的な効果が記載された方が、担当部署もより主体的に取り組めるのではないかと考える。

⇒目標値の記載のみとなっている。実際に担当課では費用の削減効果も把握できるが、目標値は、経年の数値として評価することなどもふまえて判断したものである。

・リーディングプロジェクト「誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり」に関する指標のうち、「障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合」とあるが、これは障がい者に取ったアンケートの結果か。

⇒障がい者ではなく、無作為に抽出した一般市民に対して行った市民意識アンケートの結果によるものである。本指標については、実際に障がいのある方の声を聴いて実態を把握する必要があるという庁内での議論もあり、現時点で対応できていないが、今年度から新たに障がい福祉課という部署もできたので、今後の方策として検討していきたい。

・総合計画本編 104 ページにある「就労している障がい者数」の人数には、市役所で働いている障がい者雇用の人数も含まれているか。

⇒含まれていない。一般企業等で就労する障がい者の数である。

・各リーディングプロジェクトの目標値は 2022 年度の達成目標となっているが、PDCA サイクルを回していくうえで、各年度の目標値があれば審議会でも検証しやすいと思うが、設定しているか。

⇒事業によっては、実際に各年度の目標値を設定しているものもあるが、2022 年度の目標値の設定のみのケースも多い。審議会に諮る際の評価シートには、経年変化をグラフ化してどの程度達成できているのかを見やすくし、評価の際参考にできるようにする。